

会 議 録

1 会議名

平成30年度第7回津有区地域協議会

2 協議事項（公開・非公開の別）

- (1) 会長会議の報告について（公開）
- (2) 今後の意見交換会について（公開）
- (3) 自主的審議事項について（公開）

3 開催日時

平成30年11月21日（水）午後6時30分から午後8時まで

4 開催場所

津有地区公民館 中会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：江平幸雄、太田政雄、清水昇一、中嶋博、服部香代子、古川昭作、丸山常夫、山菅節子、吉崎則夫（会長）（欠席5人）
- ・事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、野口係長、田中主事

8 発言の内容（要旨）

【田中主事】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、成立を報告

【吉崎会長】

- ・挨拶

【田中主事】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【吉崎会長】

- ・会議録の確認者：太田委員

次第3「議題（1）会長会議の報告について」に入る。

11月14日に直江津学びの交流館で開催された会長会議の内容を報告する。会議前半は、市から依頼があり、皆さんからも協力いただいた地域活動支援事業の検証結果について報告があった。資料もあるのだが内容が多く、簡単に説明できる内容ではないため、事務局に資料の整理を依頼している。資料の整理が完了次第、委員へ配布し、説明したいと考えている。会議後半はグループトークを行った。自分は高田区と名立区の会長らと一緒にグループトークを行い、大きく分けて2つが話題となった。1つは地域活動支援事業の配分額についてである。人口の多い地区と少ない地区で不公平感があるとの意見があり、それについて意見交換を行った。配分の比率については、均等割が7割、人口割が3割となっており、今後もそのまま良いとの結論になった。しかし、グループからは市への要望として、現在、予算の繰り越しが出来ないため、1年を目途に繰り越しを認めてほしいとの意見を伝えた。これによって、予算を無理に使い切る傾向がなくなるのではないかと考えである。それぞれのグループから出た要望が来年度に向けて、どのような形で反映されるのか、また、受けとめられるのかは分からないが、市からの回答を待ちたいと思っている。

以上で、次第3「議題（1）会長会議の報告について」を終了する。

次に、次第3「議題（2）今後の意見交換会について」、事務局より説明を求める。

【田中主事】

- ・資料1に基づき説明

【吉崎会長】

協議に入る。今年度の意見交換会について、当初スケジュールでは2件の意見交換会を予定していた。しかし、地域活動支援事業の追加募集や見直しによる検討により、当初スケジュールより自主的審議の協議時間が大幅に減っている状況である。現状を踏まえ、今ほど説明があった2つの意見交換会について、開催の有無も含めて協議する。

まず、「町内会長との意見交換会」については、課題抽出を目的としてこれまで意見交換を実施してきた。しかし、自主的審議テーマも決定しているため、開催の有無について協議していく。意見交換会の実施について、意見のある委員の発言を求める。

【江平委員】

町内会長との意見交換会での意見を抽出し、それが自主的審議に反映されている。今年度は協議時間が大幅に削られていることもあり、今回は見送っても良いと思う。

【吉崎会長】

今ほど開催を見送るとの意見が出た。他に意見はあるか。

【古川委員】

確かに会を重ねるごとにマンネリ化している部分もある。これ以上の意見が出るとも思えないため、これまでに抽出した意見のままで良いと思う。

【吉崎会長】

意見交換会は実施しなくて良いということか。

【古川委員】

そうである。

【吉崎会長】

他に反対の意見等はあるか。

【服部委員】

実施すべきということではないが、町内会長は1年から2年で変わる。全ての町内会長がこれまでに実施してきた意見交換会の内容を全て把握していれば問題ないが、把握していないことも考えられる。町内会長との意見交換会を実施しないのであれば、地域協議会が現在どのような活動や検討をしているのかを周知する場が必要と考える。

【吉崎会長】

意見交換会を行うのか。

【服部委員】

意見交換会は実施しないが、地域協議会が現在どのようなことに取組んでいるのかを周知する必要があると思っている。方法としては文書でも良いと思う。

【田中主事】

今ほどの服部委員の意見について補足する。地域協議会の活動周知として、地域協議会だよりを年に4回程度発行しているため、その中で活動を記載することも出来る。また、昨年度の春日区では、3月に開催している地域活動支援事業の事前説明会で自主的審議の報告を行った。必ずしも事前説明会に町内会長が来るとは限らないが、その場で活動を周知することは可能である。

【服部委員】

事前説明会の場で周知することで良いと思う。

【吉崎会長】

意見をまとめる。今回は町内会長との意見交換会は実施しないとの意見が多かった。今回は実施しないとして良いか。

(よしの声)

では、町内会長との意見交換会は実施しないこととする。

次に、「雄志中学校区地域協議会との意見交換会」の開催についてである。先ほどの説明にもあるように、雄志中学校区内の津有区、高士区、諏訪区の3つの地域協議会では共通の話題も多く、グループ討議を行っても様々な意見や相談ができる。高士区では、実施の意向があるとの話であるが、津有区としての意向を協議していく。意見交換会の実施について、意見のある委員の発言を求める。

【丸山委員】

昨年度に初めて雄志中学校区地域協議会との意見交換会に参加した。その際先ほどの吉崎会長の話にもあったように、津有区は地域活動支援事業の配分額が多いとの意見があった。人口によって配分額が異なる旨を十分に説明した上で、話し合いの場を設けてはどうかと考える。昨年度は、最終的に配分額の話になってしまった印象がある。今年度も昨年度と同様であれば、あまり参加したくないというのが本音である。

【吉崎会長】

先日の会長会議の際、たまたま諏訪区の会長と一緒にあった。会長会議の際の話では、諏訪区の会長は配分額については納得していたため、今回は配分額の話は出ないと考えている。しかし、配分額の差は当然あるため、どうしても話が出てしまうこともあると思っている。

【太田委員】

開催するのであれば、他の区ではどのように活動しているのか参考になると思う。高士区では開催を希望していることもあり、意見交換会を実施してはどうかと考える。

【山菅委員】

町内会長との意見交換会は実施しないこともあり、雄志中学校区地域協議会との意見交換会は実施して良いと思う。

【中嶋委員】

他の地区と意見交換会を行い、調整していかなければならないような重大なものは今のところないと思う。そのため意見交換会は実施しなくても良いと考える。

【丸山委員】

会長はどの様に考えているのか。会長が実施すべきと考えているのであれば、実施して良いと思う。

【吉崎会長】

自分1人の意見では決められないため、基本的には多数決で決定したいと思っている。これまで雄志中学校区の地域協議会との意見交換会を実施した際は、今後も継続的に実施していきたいとの話であった。それもあり、個人的には実施したほうが良いと考えている。

では採決に移る。「雄志中学校区地域協議会との意見交換会」の開催に賛成の委員は挙手願う。

(4人挙手)

【丸山委員】

出席者の半数であるため、本日欠席の委員の意見を聞いてはどうか。

【吉崎会長】

この場で決定したい。

【丸山委員】

しかし、3区での意見交換会は日程調整もあり、今日明日の話ではない。

【吉崎会長】

本日の地域協議会は成立しているためこの場で決定したい。意見交換会実施についての意見が同数であるため、会長の意見を追加し決定する。個人的には実施に賛成であるため、賛成多数となり開催することで決定する。日程については調整の上、決定する。開催時期としては1月から3月の間を予定しているが、諏訪区の意見がまだ決定していないため、決定後の調整となる。

以上で、次第3「議題(2) 今後の意見交換会について」を終了する。

次に、次第3「議題(3) 自主的審議事項」について事務局より説明を求める。

【田中主事】

・資料2、3、4、5に基づき説明

【吉崎会長】

自主的審議を開始して大分経つが、今年度は地域活動支援事業の追加募集や検証による見直し等により自主的審議が大幅に遅れており、協議の間が空いているため各自記憶が飛んでいる部分もあると思う。さらに今回は資料も多い。まずは、今ほどの事務局の説明に対し、質問のある委員の発言を求める。

(発言なし)

では協議に入る。資料3に基づいて個別テーマの設定から協議していく。資料3はキーワードでまとめてあり、これらのキーワードの中からテーマを決定していく。テーマを多くしても意見や方向にバラつきが出ることが予想されるため、2つから3つ程度にテーマを絞っていきたいと考えている。3つのテーマに分かれており、まず1つ目のテーマは地域で解決できるもの、2つ目が市に解決を求めるもの、3つ目が市が動けば地域も連携して動けるものとなっている。さらに、3つのテーマの中でキーワードがそれぞれ3つから4つ程度に分かれており、個別のキーワードも1つから2つ程度に絞り個別テーマに設定したいと思っている。意見のある委員の発言を求める。

【太田委員】

非常に難しい。資料を見ると、市に解決を求めるものと市が動けば地域も連携して動けるものでは「若者の流出」や「共働きによる子育て」などの共通するキーワードがある。これらを優先してはどうか。

【中嶋委員】

今ほどの太田委員の意見にあるように、共通のキーワードに絞ってはどうかと思う。

【太田委員】

全てのテーマからキーワードを選ばなければいけないのか。

【吉崎会長】

各テーマから1つずつキーワードを決めるのではない。例えば、1つのテーマから2つのキーワードを決めても良い。テーマについては、解決するための方法のようなものである。

【江平委員】

高齢化については「交通手段」のキーワードがある。最近は高齢化による交通事故も多く、テレビでも多く報道されている。盛んに交通事故を減らすために免許証の返納が進められている。しかし、津有区のような田舎ではスーパーに行くにも交通手段がなく、免許証の返納件数が少ない。免許証の返納の促進策として交通手段がしっか

りとしていけば免許証の返納件数も増え、必然的に交通事故も減ると思う。そのため、「交通手段」をテーマとしてはどうか。市が支援し、地域と連動出来ることもあると考える。現在、市でタクシー券を配布しているが、金額的にはいくらでもない。1回の乗車で終わってしまう住民もいると思う。交通手段を整備すれば予算もかかると思う。税金を使うことになると思うが、改めて考えても良い問題であると思う。

【吉崎会長】

他に意見はあるか。

【古川委員】

非常に緊迫している現実的な話としては、高齢化は直近の問題であると思っている。しかし、今後を考えると、少子化に注目していかなければいけない。さらに細かい話をするならば、「若者の流出」をどうしていけば良いのかが重要であると思うため、考えていかなければいけないテーマの1つだと思う。また、キーワードに「子供が集まる機会が少ない」とあるが、そもそも子供がいないため、集まる以前の問題だと思っている。そのため、「若者の流出」がポイントであると思う。

【丸山委員】

免許証の返納については、以前も話が出たと記憶している。例えば巡回バスのように、200円程度で30分から1時間に1本程度各地域を巡回するようなものがあれば、問題はある程度解消すると思う。以前に上杉謙信の刀を購入する話があったが、あれを踏まえるならば地域にもう少し予算を振り分けても良いのではないかと考えている。自分が現役の頃、仕事で筑波によく行った。筑波には200円である程度の場所まで行ける巡回バスが、1時間置きに運行しており街中だけではなく農村地帯も巡回していた。上越市ではこのような活動が遅れているように思う。遅れていることによって、免許証の返納時期も遅れているのが現状であると思う。

【吉崎会長】

「交通手段」にテーマを絞るということか。

【丸山委員】

そうである。

【服部委員】

資料3にあるテーマやキーワードは全て共通していると思う。「若者の流出」を止めれば子供も増え、地域の活動も盛んになると考える。

【吉崎会長】

どれを行えばどこに繋がるのかということである。

【服部委員】

自分の子供達もみんな市外に出てしまっており、結局は仕事がなく上越に戻って来ないという状況がある。まずは、若者を流出させないことが大事であると思う。「子供の集まる機会がない」や「地域活動の減少」については、現在、津有区が北部地区と南部地区の2つの地区に分かれていなければ、地域の組織や高齢者サロン等は、もう少し話を進めやすいとも思うが、現状では難しいと思う。2つの地区に分かれていることがネックになっているように思う。

【吉崎会長】

今ほどの服部委員の意見を求めると、「子供が集まる機会が少ない」等も含め「地域の組織」を見直せば良いが、現実的には地域が2つに分かれているため難しいとのことか。

【服部委員】

そうである。

【山菅委員】

個人的には「交通手段」が問題であると思っている。「交通手段」がなく困っている住民は多くいると思う。高齢になり自転車に乗れなくなってしまった住民も多く、危ないからと子供達に自転車を取り上げられた住民もいる。そうすると足がないため、買い物にも行けない高齢者が多くなる。「交通手段」は大きな問題であると考えている。

【江平委員】

少子化については、「子供の集まる機会が少ない」とのキーワードがあるが、そもそも集まる子供がいないことは問題である。子供がいないのは何故かと考えた時、若者がいても独身者が多く、結婚しない人が多過ぎるように思う。結果的に子供が少ないため、集まる機会も少なくなってしまう。小学校の入学児童がゼロの時もあり、自分の集落は88戸あるが子供がいない。自分が子供の頃は分校があり、それほど子供が多くいた。例え若者がいても、結婚せず子供が増えなければ意味がないように思う。昔は近所に世話人の年寄りがいて、縁談話を持ってきたものである。しかし今はいない。少子化を問題とするのであれば、世話人に代わる手段があっても良いと思う。どうしたら良いのかについては解決方法を検討し、総合的に考えると根本的な問題は以上の

ようなことであると考え。資料3のキーワードと外れてしまうが、考えるべき問題ではあると思う。資料3のキーワード内からあげるのであれば「子供の集める機会が少ない」だと思う。

【太田委員】

確かに子供がいなければ、経済活動が全て停滞すると思う。子供がいれば何かしらイベントや行事ができ、イベントや行事を実施すれば親も一緒に出向く。しかし、そもそも子供がいなければ話にならない。結局は高齢者だけになってしまう。

【江平委員】

「若者の流出」とあるが、いずれは流出する若者自体がいなくなってしまうかもしれない。

【清水委員】

「子供が集まる機会が少ない」については、集まる子供が少ないという観点で見た場合、今の子供は大変であると思う。子供が多くいれば機会が多くあっても苦にならないが、今は子供が少ないため色々な行事がある度に出向かなければならず大変であり、むしろ忙しそうである。遊ぶ時間も減ってしまう。

【吉崎会長】

意見をまとめていく。多く出た意見としては、「若者の流出」と「交通手段」であったように思う。これら2つを個別テーマとして良いか。

【太田委員】

少子化と高齢化で1つずつとなるため、良いと思う。

【吉崎会長】

個人的な意見としては、先ほどの服部委員の意見に共感を得た。津有区としては北部地区と南部地区に分かれてしまっている地区を1つにまとめたいと考えていた。しかし、本日出席の協議会委員の意見を取りまとめ、「若者の流出」と「交通手段」の2つをテーマとするが良いか。

(よしの声)

「地域の組織」については次期の地域協議会委員に託したいと思う。

次に、今後の協議方法の検討に入る。決定した個別テーマをどのように進めていくかについてである。資料に記載のとおり、従来どおり全体会で協議するか、グループに分かれて協議するかを決定していく。案としては以上の2つではあるが、他の協議

方法について意見のある委員の発言を求める。

(発言なし)

では意見がないため、全体会もしくはグループのどちらかに決定したいと思う。意見のある委員の発言を求める。

【中嶋委員】

全体会での協議が良いと考える。全体会の方が色々な意見を聞くことができる。また本日の出席委員の人数を考えると、グループ方式では極端に人数が少ない時もあることが考えられる。そのため時間はかかってしまうかもしれないが、全体会での協議が良いと思う。

【古川委員】

中嶋委員と同感である。グループ方式では、あらかじめ人数を決めておいても出欠席の関係で偏りが出ると思う。そのため全体会方式で進めていく方が協議はスムーズに進むと考える。

【吉崎会長】

参考までにグループ方式とは、地域協議会で集まり出席委員を2つに分けて協議する方法と地域協議会とは別の場でメンバーが集まり個別に協議する方法があると思う。個別で協議の場を作るのであれば、グループ内で日程調整が可能であると考えます。

【太田委員】

全体会での協議が良いと思う。グループごとに協議した場合、それぞれのグループが結果を発表しその後意見を統一するために改めて協議することとなる。余計に時間がかかってしまう。

【吉崎会長】

採決を取る。今後の協議方法について全体会で行うこととして良いか。

(よしの声)

今後は全体会形式で協議を行うこととする。

【田中主事】

現在、テーマが2つに決定し協議方法も全体会で行うことが決定した。更に今後、決定したテーマをどのように協議していくのかを検討してほしい。例えば、1つのテーマに専念して協議し、最終的に意見書を作成した後に次のテーマに移るのか、または1回の地域協議会で時間を半分ずつに分けて同時に協議を進めていくのか。全体会

で協議を進めていく場合、関連する部分があっても同時に協議出来るテーマは1つになってしまうと思う。協議の進め方を協議してほしい。

【吉崎会長】

1回の協議会で同時に進めて行ってはどうかと考える。1つのテーマが終了した後で次のテーマに移った場合、後のテーマを忘れてしまい疎かになることも考えられる。また2つのテーマで関連する部分もあると思う。

【江平委員】

決定したテーマに対して、いつまでに結論を出せばよい等の期限のようなものはあるのか。

【吉崎会長】

自主的審議については今期の地域協議会委員の任期中、つまり来年度末が期限となる。長期に渡って進められるように思えるが、地域活動支援事業や説明会等もあるため月に1回のペースで地域協議会を開催した場合、実質的に自主的審議を行える回数は少ない。最終的に意見書を提出する場合、再来年の2月頃が期限となる。つまり1年程度ということである。今年度は支援事業の追加募集や検証による見直し等により自主的審議の時間が大幅に削られているため、実際にテーマを協議出来る時間は今後少ないことが考えられる。

改めて、今後の協議方法について採決を取る。1回の地域協議会の中で時間を半分に分け同時に協議を進めていくことに賛成の委員は挙手願う。

(全員挙手)

全員一致で2つのテーマを同時に進めていくこととする。

最後に、今後の協議に必要な情報について協議する。今回は最終的に決定しなくて良いと考えているため、意見を出し合う形で協議を進めていきたい。例えば、「若者の流出」というテーマを協議していくにあたり、進め方としてどのような情報が必要なのかについて意見を求める。

【太田委員】

津有区の現在の年齢別の人口をデータとして調べてはどうか。年度毎に実際に若者がどの程度上越市を出て行っているのか、もしデータがあるなら知りたい。

【吉崎会長】

それについては以前、行政から情報提供があったように記憶している。

【太田委員】

その情報には流出についてのデータはなかったように思う。

「交通手段」では、三和区では NPO 団体が巡回バスを運行している。これについての資料を集めてはどうか。他、牧区等の何か所かでも運行しているが、どの様な方法で運行しているのかについて、具体的な資料があれば参考になると思う。三和区の巡回バスはどこかから 180 万円の助成金があったと聞いている。

【丸山委員】

巡回バスは三和区や牧区の外、確か頸城区でも運行していたと思う。

【太田委員】

その他でもいくつかある。運営方法や運行方法等、地区によって違うようである。それらのデータや資料を取り寄せて、どのような形で行っているのか参考にしてはどうか。

【吉崎会長】

他に意見はあるか。

【中嶋委員】

「若者の流出」については、市でも相当取り組んでいると思う。市ではどのように考え、どのような取組等を行っているのかについての情報があれば教えて欲しい。

【田中主事】

市の人口流出の対応策ということか。

【中嶋委員】

上越市は人口がどんどん減少している。それについて、行政としてどのような対応や対策を行っているのかを聞きたい。

【吉崎会長】

人口を増やす為の対策を知りたい。流出を防ぐだけでは意味がないと思う。

【丸山委員】

高校や大学卒業後に上越へ戻ってほしいが、帰って来るとは思えない。自分の子供達も県外に嫁いでしまっている。

【清水委員】

上越は大学が少ないこともあると思う。

【丸山委員】

上越にもっと大学があれば状況も違うと思う。

【服部委員】

市でも「交通手段」でNPOのような何かしらの取組はあるのか。

【田中主事】

市で担当している課はある。担当課から話を聞くことは可能である。

【吉崎会長】

市の担当課からバスについての取組内容を聞いてはどうか。

【丸山委員】

確か、身体障害者に認定されるとバスやタクシー代が安くなると思う。

【清水委員】

買い物代行サービスもある。

【服部委員】

地域住民の意見を吸い上げるにしても、どのような情報が必要なのかが問題である。

【吉崎会長】

どのようなことを望んでいるのかということか。

【服部委員】

そうである。

【吉崎会長】

買い物代行サービスについては、買い物の代行を頼みたいのか、それとも店から来てほしいのかで違ってくる。山間地では販売バスが来るところもある。確か柏崎市や板倉区には販売バス来ていたと記憶している。

【丸山委員】

以前にも話題となったが、まずは地域住民が何を望んでいるのか、どういうことをして欲しいと考えているのかをアンケートのようなものを取り、地域の声を聞ければ良いと思う。しかし、アンケート等を行うことは大変に難しいという結論に至った。まずは高齢者・流出してしまう若者世代の声を聞くことが1番良いと考えるが、それがなかなか難しい。しかし声を聞くことが出来れば一番手っ取り早いと思う。

【吉崎会長】

今ほど意見のあったアンケートについては、当初地域協議会で実施することを検討していたが、なかなか実現しなかった。協議会委員任期の最後の1年である来年度中

にアンケートを実施して結果を取りまとめ、最終的には結果を地域に提示したいと考えている。しかし、地域協議会の自主的審議の中には反映できないことになる。そのため、次期の地域協議会委員に託す形になってしまおうと思っている。

【田中主事】

当初検討していたアンケートは津有区全体を対象にしたアンケートであった。例えばテーマに沿ってバスの利用者のみを対象にアンケートを実施するのであれば、高齢者サロンの利用者に話を聞きアンケートを取ることも出来ると思う。若者については若者が集まる組織に依頼することも出来る。この様に細かい形でのアンケートは実施が可能であると考えている。地域全体を対象にアンケートを実施となると大がかりになってしまい費用もかかってしまうが、細かい形でアンケートを実施するのであれば、その場でアンケートを配布して回収まで行うことも可能であると思う。

【丸山委員】

アンケートは生の声が聞けるものであり、声を聞くことが出来れば地域協議会でも協議の進行に役立つと思う。例えばアンケートではなく、どこかのグループに声掛けをして意見を聞く程度でも、1つの例として実施しても良いと考えている。まずは声を聞かなければ空想の話だけで協議を進めていくことになってしまう。

【吉崎会長】

協議を進めるための情報をどのようにして取得していくのかということである。

【古川委員】

「若者の流出」の理由や「地域活動の減少」の理由といった原因が掴めていないように感じている。原因を探るための手段として、アンケートも良いと思う。アンケートの結果から原因が見えてくるかもしれない。原因がどこにあるのかが見えてくれば明かりも見えてくるような気がする。

【吉崎会長】

市で流出について、どこに行ったのか、なぜ行ったのか等の調査したことやデータはあるか。

【野口係長】

上越市創造行政研究所から出たデータでは、首都圏等の大きなエリアでの人の動きを出していた。

【吉崎会長】

「若者の流出」の参考データにはなると思う。

他に意見はあるか。

(発言なし)

事務局より取りまとめ願う。

【田中主事】

「交通手段」については三和区や牧区にてNPOが取り組んでいる巡回バスについて、また、市の担当課からの交通関係の説明についての話が出た。「若者の流出」については人口統計のデータ、市の取組みや人口増加に向けての方策についての話が出た。また、共通の話題として地域住民から望むものや困っていることについての声を聞くとの話が出た。これらの中で今すぐに用意出来るものとして、人口統計データについては以前に配布した資料の中に津有区に関するデータがあるため、改めて用意することは可能である。また三和区の巡回バスについては、資料提供について事務局で担当課に確認をする。次に、市の方策についてはそれぞれの担当課に地域協議会への出席を依頼し、調整をしたいと思う。地域住民の声については、ターゲットとどのように聞くのかを協議してほしい。

【吉崎会長】

今ほど事務局より説明のあったもの以外にも、必要な情報はあっていると思う。本日欠席の地域協議会委員からの意見もあると思う。次回の地域協議会では今回の協議・決定内容を資料としてまとめ、用意できる参考資料と合わせて配布したいと思う。これらの資料を基に、実際にどのような情報を収集していくのかについて協議していきたいと考えている。

【江平委員】

高齢者だけの住宅が津有区にどの程度あるのか調べることは可能か。例えば70歳や75歳以上のみの世帯を調べることができれば今後の協議の参考になると思う。可能な範囲で構わない。

【田中主事】

事務局にて可能な範囲で確認する。

【吉崎会長】

先ほど丸山委員より意見のあった情報の取得については、高齢者サロンを利用して住民がどのような交通手段を望んでいるのかをその場で記入してもらうことは可

能であると思う。高齢者サロンは月数回程度開催されているため、情報収集を進めて良いと思う。これについてどう思うか。

【丸山委員】

前回の地域協議会で同じような話題が出たような気がする。文章を書いてもらうのではなく、5段階評価で調査するような。

【吉崎会長】

それとは違う簡単に記入してもらおう程度の調査である。次回の地域協議会までに調査を進めても良いか。

【服部委員】

内容によると思う。逆に高齢者サロンの開催者から聞いてもらってはどうか。書いてもらうよりも早いように思う。

【丸山委員】

簡単に書いてもらうといっても意外と難しいと思う。

【吉崎会長】

どのような方法で調査するのかについては、次回の地域協議会にて協議したいと思う。

【服部委員】

その方が良いと思う。

【丸山委員】

まずは、おおざっぱに聞いてみるのも良いと思う。

【吉崎会長】

内容についても次回の地域協議会にて検討したいと思う。以上で次第3「議題（3）自主的審議事項について」を終了する。

次に、次第4「その他 次回の開催日について」に入る。

— 日程調整 —

・次回の協議会：12月20日（木）午後6時30分から

ファームセンター 農事研修室

最後に、冒頭の会長会議の報告について追加報告をする。来年度の地域活動支援事業については、今年度並みの1億8千万円の事業費となっている。配分額についても均等割が7割、人口割が3割と変更はない。津有区については人口割から見ても今年

度並みの配分額になると考えている。詳細な金額については改めて市から報告があると思う。今後のスケジュールについては、2月下旬までに採択方針や募集期間等を地域協議会の中で決定していく予定である。2月下旬に市の予算が決定・公表され、同時に制度の概要についても公表される。3月からは新年度の募集に向けた相談受付が開始し、4月1日より事業募集が可能となる。当然、市議会にて決定しなければ正式決定とはならないため、以上の報告は仮の予定となっている。募集開始後の予定については、地域協議会の中で改めて協議していく。今ほどの説明に質問のある委員の発言を求める。

【中嶋委員】

今年度は配分額がかなり余った。これについて、なぜこれほど予算が余ってしまったのか簡単に意見を出し合い、勉強をした方が良いと思う。来年度は今年度の補助希望額を上回れば良いが、今年度と同じ状況になることも考えられる。

【吉崎会長】

来年度の採択方針や募集期間等の決定は、2月下旬までに行うことになる。今年度の総括としては2月下旬までには何らかの形で行っていきたいと考えている。

その他、事務局より何かあるか。

【田中主事】

- ・地域活動フォーラムについて説明と確認

【吉崎会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690 (直通)

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。